

団体（東久留米市）

東久留米市本町 3-3-1

東久留米市

エコ農産物研究会



1：主な販売品目

農産物名	希望取引時期
ホウレンソウ	10月上旬～3月下旬
ニンジン	6月上旬～7月下旬、12月上旬～2月下旬
エダマメ	6月上旬～9月下旬

2：販売場所

市場出荷 直売センター（JA 東京みらい） 市内スーパー ほか

3：東久留米の農業

(1) 東久留米について

都心から北西にある東久留米は、北は埼玉県に接する武蔵野台地の中央に位置しています。農地面積は 185 ヘクタールあり 299 戸の農家があります（平成 24 年）。市内では数か所の美しい湧水があり、中でも「落合川と南沢湧水群」は環境省による「平成の水百選」に都内で唯一、選定されました。その豊かで美しい水で生産される主な農産物は、ホウレンソウやダイコン、トウモロコシなどですが、時代のニーズに合わせ、夏野菜の代表格でもあるキュウリやナス、トマトのほか、エダマメなどの多種多様な作物が生産されています。

(2) 直売所で消費者と交流

市内でよく目にするのが庭先や畑などで野菜を販売する直売所です。住宅地の近くに畑が多くある東久留米では、多くの市民がこの直売所を利用しています。消費者は「新鮮である」、「値段が安い」、「おいしい」、「作っている畑や人が見えて良い」と好評です。農家としても消費者との交流を望む声が高まっており、直売所が農家と消費者の交流の場としての役割を果たしています。



直売所に並び野菜

4：東久留米市エコ農産物研究会

(1)「柳久保小麦」のように

東久留米では、かつて麦の生産が盛んに行われていました。小麦の品種「柳久保」は、1851年、現在の東久留米市柳窪の奥住又右衛門が旅先から持ち帰った一本の穂から生み出されたとされ、大変評判となり、東京だけでなく神奈川県まで生産が広がっていきました。近年、この柳久保小麦が復活し、粘りの強さや風味が好評を集めています。私たちエコ農産物研究会も、この柳久保小麦のように粘り強く研究に励み、美味しい野菜を作っていきたいと考えています。

(2) 研究会設立の経緯

当研究会は東久留米市役所に橋渡しになってもらい集まった、農薬を減らし有機質肥料を多く使う農業に取り組みつつ、生産を拡大したいという考えを持った40～60代の6人の仲間と結成した新しい団体です。東京都が平成22年から開始した「都市農業経営パワーアップ事業」を活用し、パイプハウス23棟と防災兼用井戸1基を、新たに施設を増設する予定です。

(3) 農業集落環境を守る

農地と農家の家屋、そしてそれらを取り囲む防風林などの農業集落の環境も、農業を続けていく上で重要です。これは、拡大を続ける市街地にとっても緑や歴史、文化をあらわす大切な景観になっています。この農業集落環境も、私たちは積極的に守っていこうと思います。

5：今後の目標

会員それぞれが土づくりや病気に強く、施設栽培や東久留米の土壤に適した品種の検討を行い、さらには農薬の使用回数を減らすために、日々研究を行っています。今後、それらの研究内容は、会合などを通して情報交換を積極的に行い、皆様に美味しい野菜をお届けしたいと考えています。

6：連絡先

(1) 電話番号 042-470-7743 (東久留米市役所 産業政策課)



植え付けを待つトマトの苗



JA 東京みらい東久留米支店